

「自分の意見を大切に」

西ノ島町立西ノ島中学校 二年 坂冬地

みなさんは話し合いなどの場で、他人と意見がぶつかったとき、自分の意見を言えなくなってしまうことはありませんか。私は気が弱くて、いつも人の意見に押されてしまい、納得していなくても他人に合わせてしまうことが多々あります。そして、結局自分のやりたいことがしっかり主張できないまま、いじけて話し合いが終わってしまうことがよくあります。いつもクラスメイトからは「冬地、面倒臭い」と言われてしまいます。そのとき私は「そっちが私の意見を潰しているのではないの。」と思います。しかし、振り返ってみると、ただ私が自分の意見をきちんと相手に主張できていないせいだということに気が付かされるのです。そして、その性格が直せないまま中学校へ入学した私は、一年生の後半になると内気になって、さらに「どうせ私の意見なんか通らないし。」と自分の意見を言うのが面倒になっていきました。

そのような中、二年生になってすぐ修学旅行がありました。修学旅行はクラスみんな楽しみにしている行事で、もちろん私もとても楽しみにしていました。修学旅行では京都市内での自主研修があり、京都にはたくさんの珍しいものや面白そうなものがあり、私はとても楽しみにしていました。自主研修は、それぞれの班で行きたい場所を決め、一日の計画を立てて、それを実行するというものでした。当然、自分の意見を言えないと自分の行きたい場所へ行けません。この話し合いのときも人の意見に合わせることはできず、結局ひねくれていただけで、全く自分の意見を主張できずにそのまま話し合いは終わってしまいました。

そしてそのまま修学旅行当日を迎えました。自主研修の日になると、私があまり興味のない寺院巡りなどになり、そのときも、「私の行きたい場所じゃないのに。」とずっとひねくれていました。そのような中、自主研修で計画していた場所を全て巡り終わり時間が余ったので、お腹が空いた私は、同じ班の友達に「ハンバーガー店に行きたい。」と言ってみました。友達は「いいよ。」と応えてくれて、小さな出来事でしたが、私は自分が言った意見に人が納得してくれたことが、ものすごく嬉しかったです。次の日、みんな楽しみにしていたテーマパークに行ったときも、一緒にまわっていた友達に私が行きたい所や食べたいものを言えば「いいよ。」と言ってくれて、とても気持ちよく嬉しい気持ちでいっぱいでした。私も、友達の行きたい場所ややりたいことを「いいよ。」と言ってあげることができ、とても楽しい時間でした。そして自分の意見を人に認めてもらおうと、自分も人の意見を聞く余裕が出てきて、とてもみんなが気持ちよくなるなと感じました。相手を承認すること、そして自分が承認されることがこんなに大切なことなのだということを感じた瞬間でした。私にとって、中学生としての修学旅行はかけがえのない特別な思い出となりました。

かけがえのない経験ができた私ですが、「準備の段階からこうやって自分の意見を言えばもっとよかったな」という後悔も出てきました。このことから私は、自分の意見を大切に諦めずに相手にきちんと伝えれば、その思いはきっと伝わる、そうやって自分が認められ

れば、自分も相手のことを考えてあげることができると思いました。これからは自分の意見をしっかり主張して、相手の意見も大切にしていこうと思います。相手に伝える勇気と相手を思いやる優しさで、お互いを認め合う社会を作っていけるような人にこれからなっていきたいと思います。